



## 高齢者ケアアプリ「Sヘルス」普及のための指導者研修を支援

2022年2月24日

国際協力機構(JICA)ベトナム事務所

2月、保健省・人口家族計画総局(GOPFP)とJICAは「ベトナム国高齢者ケアアプリ「Sヘルス」普及のための指導者研修」の活動として、同アプリの普及を目的とした遠隔研修を、3省2市(タイビン、フート、タインホア省及びハイフォン、ハノイ市)に対して開始しました(プロジェクト総額1千万円)。

「Sヘルス」の「S」は Silver の頭文字とともにベトナムの国の形を表すもので、高齢者の健康向上を目的として、GOPFPと国連人口基金(UNFPA)の共同で開発され、2021年1月にローンチしました。健康増進のための情報や、体操、新型コロナウイルス感染予防対策などの情報提供の機能を備えており、正しい情報を早く、多くの人に伝える役割も果たしています。

2月16日にハノイで行われたキックオフ研修では、JICAベトナム事務所より「日本の協力と協働しながら、同アプリが今後全国に効果的に広がり、高齢者の健康増進に役立つことを期待する」と挨拶し、GOPFPラン副局长、UNFPAクイン担当からは、ベトナム政府の決定「2030年に向けた高齢者健康プログラム」やSDGsの「誰一人取り残さない」の達成に向けて、関係機関と協調しながら進めていくことが発表されました。

ベトナムの高齢化対策支援において、JICAは、2017年から草の根技術協力事業「高齢化対策としての介護予防事業の支援」を実施し、岡山県津山市の住民主体で行われ、高齢者の身体機能の維持、転倒防止に効果があるとされる「こけないからだ体操」をハノイ市郊外ナムトゥリエン区に紹介しました。2022年からは、さらにベトナムの他地域に広げていく仕組みづくりの強化を目的として、新たな草の根技術協力事業「こけないからだ体操」を通じた介護予防事業の支援を岡山県津山市及び社会福祉法人やすらぎ福祉会がGOPFPとともに、今回の対象3省2市と協力しながら展開する予定となっており、相乗効果が期待されています。

ベトナムは、世界でも最も早いスピードで高齢化が進むと言われており、15年後には65歳人口が人口の14%以上を占める「高齢社会」になると予測されています。これに伴い、社会保障や高齢者医療の充実が求められていますが、割ける予算は限られており、高齢者介護予防活動の必要性が高まっています。また、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる社会隔離や感染を予防するための行動制限により、高齢者への身体的、精神的な影響が指摘されています。

JICAは引き続き、ベトナムの新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすい脆弱な人々への支援に取り組みます。

○本件に関する問い合わせ

国際協力機構(JICA)ベトナム事務所

11Fl., Corner Stone building, 16 Phan Chu Trinh, Hanoi, Vietnam

Tel: (+84-24) 3831 5005 (内線 137) 担当: 高木